

研 究 分 野	海洋構造	部 名	浅海環境部
研 究 課 題 名	海況予報高度化技術確立調査		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.7 ～ H.16		
担 当	主担：大水 理晴 副担：今井美代子		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

海況自動観測システムによる過去の観測値の解析結果及び現在の観測結果と試験船による陸奥湾の海況調査結果を統合することにより、陸奥湾の海況予報の高度化を図る。

〈試験研究方法〉

1. 茂浦定置観測

休日を除く毎日午前9時、茂浦地先の気象（天気、気温、気圧、風向・風力）、海象（表面水温、比重）の観測。

2. 陸奥湾海況自動観測収集データ解析と陸奥湾海況情報の提供

〈結果の概要・要約〉

・2003年の陸奥湾の海況

(1) 水温

2003年の陸奥湾の水温は、平館ブイで1月、青森ブイで1月～4月、東湾ブイ、野辺地ブイで1月～6月まで平年に比べやや低め～はなはだ低めで推移した。その後、7月～10月にはヤマセ型の気象条件(冷夏)の影響を大きく受け、全ブイで平年に比べやや低め～はなはだ低めに推移し、11～12月は平年並み～平年に比べかなり高めとなった。

(2) 塩分

塩分は年間を通して、全ブイ全層で平年より低めに推移した。

また、日平均値の年間変化範囲は、全層でみて平館ブイで32.62～34.16、青森ブイで31.50～34.13、東湾ブイで32.04～34.30であった。

(3) 湾中央部底層の溶存酸素（DO）

東湾ブイの底層では9月下旬から10月上旬にかけて急激に低下し、10月上旬～中旬にかけて、最も低めとなった。その最低値は10月11日に観測された2.7mg/l（飽和度34.7%）であった。

(4) 湾口部の流況

平館ブイ15m層では7月と8月に北上流が比較的強勢となったが、ほかの時期には概ね南下流が優勢で推移した。底層では年間を通じて概ね南下流が優勢に推移し、特に6月～9月にかけては強勢化した。

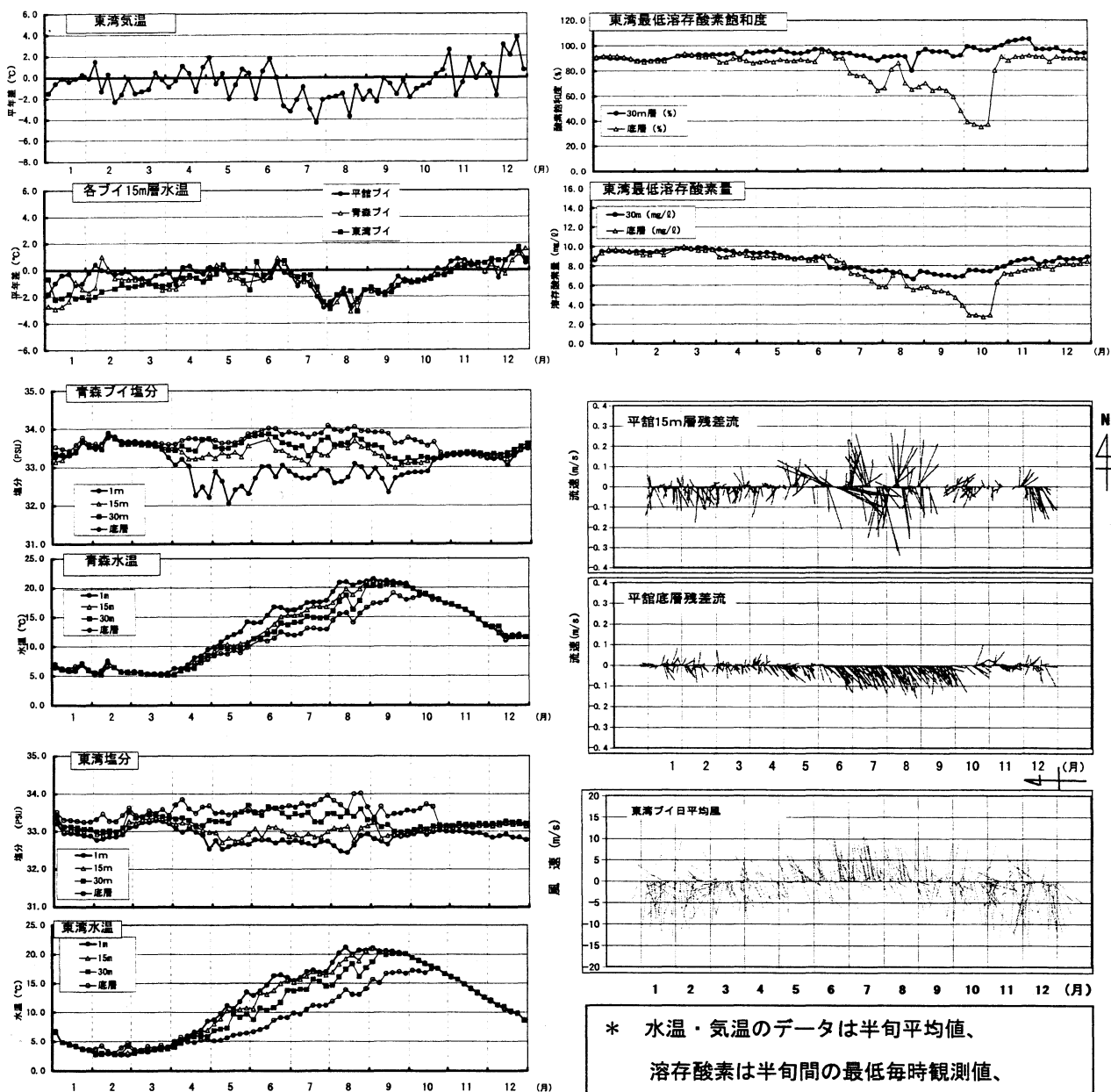
(5) 気温

東湾ブイの気温は1月～6月まで平年並みに推移したが、7月～9月はヤマセ型の気象条件(冷夏)の影響で、平年に比べやや低め～かなり低めに推移した。その後、10月～11月は平年並み、12月には平年よりやや高めに推移した。日平均値の年間変化範囲は-3.3～23.2℃であった。

(6) 風

1月～4月まで西風卓越、5月は東、西が交互に見られ、6月～9月は東風が特に卓越、10月～12月は西風が卓越した。

〈主要成果の具体的なデータ〉



＊ 水温・気温のデータは半月平均値、
溶存酸素は半月間の最低毎時観測値、
流向流速値は 25 時間平均、
風向風速値は日平均値使用。

〈今後の問題点〉

陸奥湾の海況の的確な把握。海況変動要因の解析と変動モデルの構築。

〈次年度の具体的計画〉

昨年度と同様に定置観測、陸奥湾海況情報の発行の継続。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ 陸奥湾海況情報 (No.415～465) 毎週火曜日発行。36 機関 (湾内市町村、漁協、県関係機関) にファックス配信、当研究所ホームページに掲載。
- ・ 陸奥湾海況自動観測システムによる日平均水温・気温のグラフを、当研究所ホームページ上で公開。
- ・ ホタテガイ天然採苗会議 (全 10 回)・ホタテガイに関する情報会議 (全 10 回)、春季・秋期のホタテガイ養殖実態調査に関わる会議 (全 4 回) において陸奥湾海況情報を元に、最新の陸奥湾の海況について発表。